

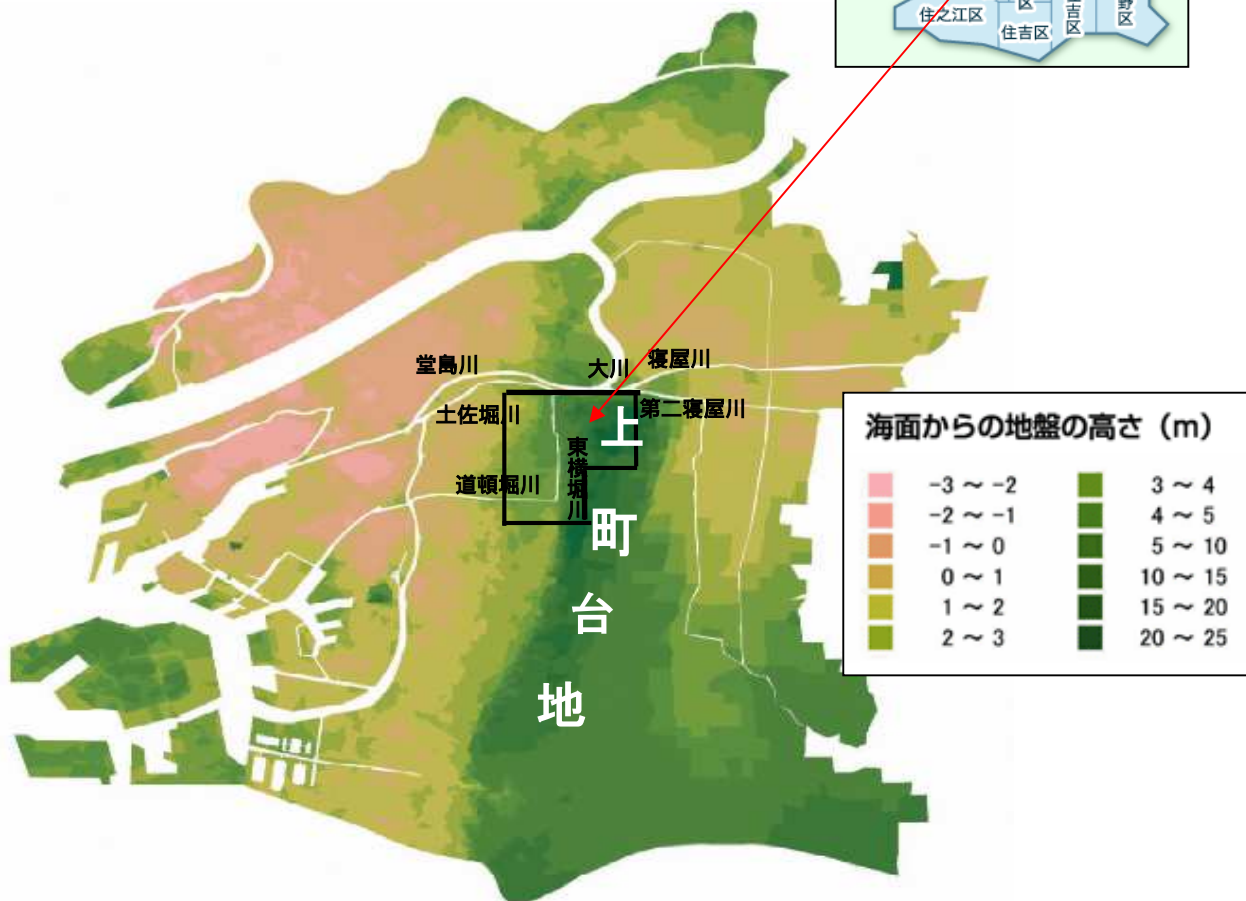
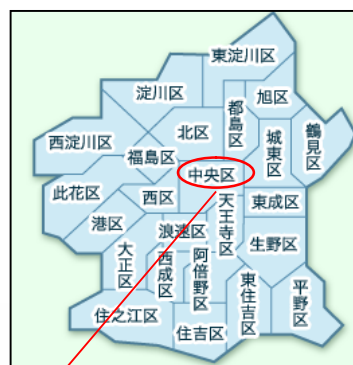
第1章 中央区の特性

地震や水害などの被害を最小限に抑えるためには、地域の特性に応じた対策を講じることが重要です。中央区の特性としては、次の点が挙げられます。

第1節 地理的特性

中央区の東部は上町台地上にあるため、市内で最も高い場所になっていますが、それ以外の区域は低地となっています。

また、北区との区境には大川・土佐堀川が、都島区との区境には寝屋川が、その他、区内には第二寝屋川、東横堀川、道頓堀川が流れています。



区の中心部には、南北にわたって上町断層帯が通っており、この活断層による上町断層帯地震は、震度7クラスに達することが想定されています。

第2節 土地利用状況

中央区の各地域では、それぞれ特色をもった土地利用がなされています。

区の北西部は大阪を代表するビジネスセンターであり、御堂筋を中心に金融機関や大手企業などが立地しています。中心部の船場地区には繊維関係の卸商、問屋街などが集まっているなど、活発な経済活動を展開しています。

区の北東部は大阪城公園を中心とする地域であり、緑あふれる都心のオアシスとして内外から多くの観光客が訪れる場所であり、また、市民の憩いの場所として親しまれています。

区の南部は、「ミナミ」の愛称で呼ばれる「にぎわいのまち」であり、買い物客や観光客など多くの人たちであふれています。

区の南東部の中寺・谷町界隈には、由緒ある寺社などが数多くあり、落ち着いた歴史の匂いを漂わせています。

このように中央区では、様々な土地の利用がなされていることから、地域の特色に応じた防災対策が必要となります。



御堂筋



大阪城公園



ミナミの道頓堀



中寺・谷町

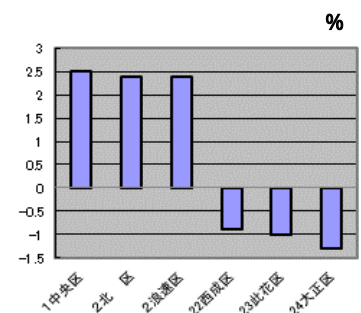
第3節 人口

1 人口増加率が市内ナンバー1

中央区では、ビル跡地などを中心にマンション建設が進み、令和元年における人口増加率（2.5%）が市内で一番高くなるなど、常住人口は急増しており、令和3年1月時点、約10万4千人となっています。（右のグラフは、人口増加率の高い区と低い区の増加率を表しています。）

人口が増えると、人と人とのつながりがどうしても希薄になります。災害時という緊急事態においては、人と人とのつながりは非常に重要になることから、防災の観点からも大きな課題となっています。

令和元年の人口増加率（対前年比）



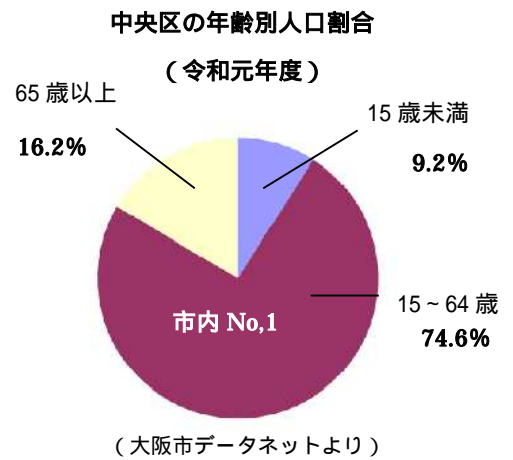
大阪市の推計人口年報（令和元年）より

2 生産年齢人口(15～64歳)の割合が市内ナンバー1

年齢別でみると、年少人口(15歳未満)・生産年齢人口(15～64歳人口)の割合が近年増えており、特に、生産年齢人口の割合は、74.5%と市内で最も高くなっています。

一方、老年人口の割合は、減少傾向にあります。一方、単身の高齢者世帯数は約5,500世帯と増加傾向にあります。

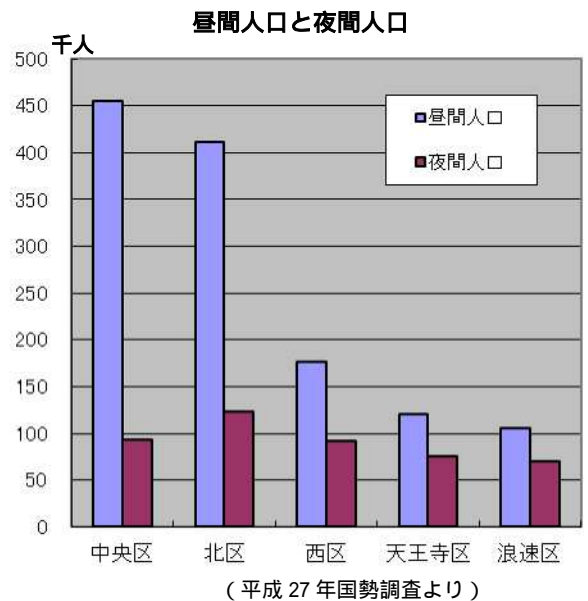
中央区では、単身の高齢者など災害時に支援を要する人々を、多くの割合を占める若い世代がいかにか支援していくか、支援の体制づくりが今後の課題となっています。



3 昼間人口が市内ナンバー1

中央区の昼間人口は、夜間人口の約5倍の45万人あまりであり、その差率は、488%と市内で最も多くなっています(右のグラフは市内で昼夜人口差率が多い5区の人口を比較表にしたものです)。

このため、昼間に災害が発生し、公共交通機関が途絶した場合には、帰宅が困難となる人が多数想定されます(大阪市では、中央区内で帰宅困難者が、市内で最多の約24万人発生すると試算しています)。



- ・夜間人口とは、調査時に調査の地域に常住している人口です。
- ・昼間人口とは、夜間人口に中央区への通勤・通学する人の数を足して、中央区外に通勤・通学する人の数を引いた人数(昼間人口 = 夜間人口 + 流入人口 - 流出人口)です。